街の中の森ネットワーク

・初めに

私が在学している大学のある大分県にはたくさんの自然遺産があります。
景観・自然・動植物・祭り、石仏や石橋。文化と伝統をこれからの世代が地域資源を保全・再生する活動が県内各地で行われています。
2012年、大分駅が新しくなりました。
大分駅はこれまで県庁や商店街のある北側に向かって改札口やテナントを配置していました。ですが新しくなった大分駅ではこれまで住宅街が中心だった南側に大きなロータリーをつくり、高速道路降り口からの交通の利便性を向上させテナントも両サイドから利用しやすい形に生まれ変わりました。
ですが、このままでは主要都市にある大きな駅とあまり変わりはありません。
そこで新しい大分駅周辺にどのようなものがあり、駅との関わりをつくれる場所はないかと探しました。
注目したのは、「大分市美術館」です。
大分市美術館は大分駅南口から徒歩10分という近い場所にありながら、小高い丘の上にあり高崎山の峰から延びる森に囲まれています。ここには様々な樹木が育ち、多くの生き物たちも見ることのできる市民の憩いの場所となっています。
そこで新しい大分駅の南口に大きなビオトープを兼ねた森をつくり、大分駅でも大分の自然の姿や野鳥などを大分駅でも見ることはできないでしょうか。市街地でありながら大分美術館周辺では、県内でも多くの野鳥が観察できるポイントです。ですが近年の都市開発により、私たちの知らないところで彼らは繁殖地を変えるなどの理由で着実に数を減らしています。そんな彼らの避難や生活場所としての機能もはたす事が出来るのではないでしょうか。
また通年にわたって保持・管理にたいへん手間のかかる朝顔やゴーヤなどのツタ科の植物のグリーンカーテンに変わり、大分駅全体を夏は木陰で涼しく冬は大分全体で渦巻く強風から駅を守ってくれる新しいエコシステムをつくることはできないでしょうか。
そこで私は大分駅「ビオガーデン（大地の庭）」計画を提案します。

人への影響（希望が望める効果）

生物の面からだけでなく、人への影響として「森林浴」の効果が期待できるのではないでしょうか。

森林浴とは森の香りや空気、美しい景色や色彩が人の整理に及ぼす効果の事を言います。現在では医学的にも証明された立派な治療法であり、森林セラピーを推奨する団体が指定する「セラピー基地・セラピーロード」に大分市は県庁所在地では数少ない指定場所となっています。

見て・触って・聞いて・嗅いで・味わう。

五感を刺激する中で血圧の低下や、緊張の緩和。更には日本人特有の感覚としては青々と茂った夏の木々や満開の桜を見る事でワクワクするといった味わうことの少なくなった感覚を思い出すという事も証明されています。

また大分駅の北側には近々大きな病院ができる計画があり、大分駅周辺が緑豊かになる事は観光だけでなく、地域にも大きな利益があると推奨できます。

これまで、傾向として療養のために遠くに行かなければならないと思っていたそんな考えを、県庁所在地に森林セラピーも行える環境を整える事でより馴染みやすさと新たなる理想を持つことはできないでしょうか。

現在の大分駅

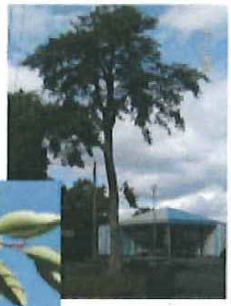
- 今後、駅の北側に大きな病院ができる予定。
- 地図の下部には高崎山から延びる広大な森が望め、その中に大分市美術館もある。

・理想的な環境づくりのための植物の選出

クスノキ

クヌギ

クロガネモチ
（←雌木
雄木→）



その他の候補
トチノキ
ナツメ
サンゴジュ
タブノキ
など

大分駅南口に形成する森のビオトープは、公園のような人が中心に集う場所ではなく森や林の中を疑似体験し植物と野鳥と人が共存できる場所を理想にします。
そのためには街路樹に多い高さ５メートルにも満たない手入れを重視したこれまでの樹木選びではなく、大分市美術館周辺の森に見られる九州や日本の森本来の樹木を中心に選出しなければなりません。
そして大分駅南口周辺の広さを考えて、最低でも５種類の樹木と３種類の背の低い樹木を配置する計画を私は考えます。

ヒサカキ

クマザサ

最後に

私は今回の構想を考える工程で、これまでの環境配慮の考え方は人の住む場所と動植物の住む場所を分けてしまえば自然を守ることにつながると考える傾向がみえてきました。

この考え方はヨーロッパや世界各地で当たり前の考え方として、自然保護区域などのかたちで実行されています。

しかし国土の限られているわが国では、人と自然の区域を完全に分断してしまうには早い段階で限界が見えてしまいます。かつての日本は農業や商業など様々な暮らしを営みながら、自然と共に生きる里山という生活スタイルがありました。里山では多くの植物が自生し動物が暮らす区域に人が暮らす部分をつくる。ここまでは長年うったえられてきた環境破壊の構図と変わりありません。

ですが昔の日本人は考えました。田んぼに鳥を受け入れ害虫駆除を行ってもらい、鳥たちが落とす糞を土壌の肥しにする事。

日本人は遠い昔から自然を大切にする心とその術を持っていたのです。

昔に立ち戻ることは難しくても、少し視点を変えて現代版の里山をつくることはできないでしょうか。

私は今回の活動にとどまらず、自然を隔離してしまわない街づくりの提案をこれからも考えていきたいと考えています。そのために日々新しい発見と振り返り見る視点を大切にしていきたいと思います。